

2022年2月22日
株式会社三菱UFJ銀行

グリーンファイナンス・フレームワークによる
プロジェクトファイナンス組成について

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 ^{はんざわ じゅんいち} 半沢 淳一、以下「当行」）は、合同会社 NRE-21 インベストメント（業務執行社員 一般社団法人七戸天間館倉越地域活性化基金）及び合同会社 NRE-37 インベストメント（業務執行社員 一般社団法人浪岡地域活性化基金）との間で、スポンサーのヴィーナ・エナジー株式会社（以下、「ヴィーナ・エナジー」）が保有するグリーンファイナンス・フレームワークに基づくシンジケートローン方式での優先貸付契約（以下、「本契約」）を、2021年11月19日に夫々締結いたしました。

本事業は、青森県七戸町と青森市における夫々25MWdc 規模の太陽光発電事業を対象とした二件のプロジェクトファイナンス案件となります。なお、本二件の太陽光発電プロジェクトは、年間10,897 世帯にクリーンな再生可能エネルギーを供給し、従来の火力発電所と比較して、年間最大30,425 トンの温室効果ガスの削減と約4,200 万リットルの節水効果があります。当行は、これまで再生可能エネルギー事業や、PFI 事業におけるプロジェクトファイナンスの取組を通じて培ったノウハウを生かし、本事業の特性を踏まえたファイナンススキームを構築し、6 金融機関によるシンジケートローンの組成に至りました。

アジア太平洋地域で最大級の再生可能エネルギー発電事業者 (IPP) であるヴィーナ・エナジーは、合計出力 16 ギガワットを超える開発・建設・稼働中の太陽光発電所、風力発電所（陸上／洋上）、蓄電池発電所、及びハイブリッド再生可能エネルギー資産を有しています。日本においては、稼働中の太陽光発電所及び風力発電所の総発電容量は 500MW に達しています。2018 年、ヴィーナ・エナジーはすべてのステークホルダーへさらなる透明性と説明責任を提供する目的で包括的グリーンファイナンス・フレームワーク（以下、「フレームワーク」）を制定しました。同フレームワークは日本格付研究所（JCR）と ESG 調査会社である Vigeo Eiris から業界最高水準の格付を取得しており、フレームワーク上の要件を満たす再生可能エネルギープロジェクトはグリーンローンの調達を通じて持続可能な社会に貢献します。

本ローンの概要

契約締結日	2021年11月19日
アレンジャー/エージェント	株式会社三菱UFJ銀行
組成金額	49億円（七戸町案件）／58億円（青森市案件）
資金使途	太陽光発電事業の開発
貸出人（五十音順）	株式会社三十三銀行、株式会社常陽銀行、株式会社鳥取銀行、株式会社百五銀行、株式会社みちのく銀行、株式会社三菱UFJ銀行

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。2021年5月17日には、2050年までに投融資ポートフォリオの温室効果ガス排出量のネットゼロ、および2030年までに当社自らの温室効果ガス排出量のネットゼロの達成をコミットする「MUFG カーボンニュートラル宣言」を発表しました。その実現に向けて、2030年度までのサステナブルファイナンス目標額 35兆円を掲げ、今後もお客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以 上